

米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価(案)に関する意見交換会の概要

食品安全委員会は、本年11月2日～29日の間、関係者の意見・情報の募集を行った「米国・カナダの輸出プログラムにより管理された牛肉・内臓を摂取する場合と、我が国の牛に由来する牛肉・内臓を摂取する場合のリスクの同等性」に係る食品健康影響評価(案)について、意見・情報の募集期間中に関係者間の意見交換を図るため、11月14日から全国7カ所で意見交換会を開催した。その概要は以下のとおりである。

意見交換会のプログラム

1. 米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価(案)について説明
(食品安全委員会プリオン専門調査会専門委員)
2. パネルディスカッション
(消費者、生産者、事業者、専門家及び関係行政機関)
3. 会場参加者との意見交換

日付	時間	開催地	会場
平成17年11月14日(月)	14:00-17:00	札幌	シェラトンホテル札幌
平成17年11月15日(火)	14:00-17:00	大阪	梅田スカイビル スペース36L
平成17年11月16日(水)	14:00-17:00	仙台	斎藤報恩会館
平成17年11月17日(木)	14:00-17:00	福岡	ホテルレガロ福岡
平成17年11月18日(金)	14:00-17:00	広島	NTTクレドホール
平成17年11月21日(月)	14:00-17:00	名古屋	ナチュラルホテルエルセラーン
平成17年11月22日(火)	14:00-17:00	東京	日本青年館

(各会場の出席者等については、別紙1及び2参照)

意見交換会で出された主な意見等

(別紙3参照)

アンケートの結果

(別紙4参照)

- 米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会 出席者 -

11月	地域	開会挨拶 食品安全委員会	講演者 プリオン専門調査会	パネルディスカッション				関係行政機関	
				コーディネーター	消費者	生産者	外食産業/流通・加工業	厚生労働省	農林水産省
14日(月)	札幌	見上彪	堀内基広	増田淳子 (農政ジャーナリスト)	前濱喜代美 (生活協同組合 コープさっぽろ理事)	奥秋博巳 (JA土幌緑陽肉用 牛牧場代表)	中井尚 (社)日本フードサー ビス協会事務局長兼 業務部長)	蟹江誠 (医薬食品局食品安 全部監視安全課 BSE対策専門官)	高橋直人 (大臣官房審議官)
15日(火)	大阪	寺尾允男	小野寺節	中村靖彦 (食品安全委員会 委員)	飯田秀男 (全大阪消費者団体連 絡会事務局長)	八木春樹 (有)八木畜産)	山本宏樹 (株)ニチレイ 品質保証部長)	道野英司 (医薬食品局食品安 全部監視安全課輸入 食品安全対策室長)	伊地知俊一 (大臣官房参事官)
16日(水)	仙台	寺田雅昭	小野寺節	中村雅美 (日本経済新聞社 編集局科学技術部 編集委員)	入間田範子 (宮城県生活協同組合 連合会常務理事)	大友学 (古川農業協同組合 肉牛部会長)	大川原潔 (仙台牛たん振興会 会長)	森田剛史 (医薬食品局食品安 全部企画情報課情報 管理専門官)	高橋直人 (大臣官房審議官)
17日(木)	福岡	見上彪	甲斐諭	中村雅美 (日本経済新聞社 編集局科学技術部 編集委員)	陶山恵子 (エフコープ生活協同 組合理事長)	三宅貞行 (JA福岡県肉用牛 生産者の会会長)	小笠原荘一 (日本チェーンストア 協会常務理事)	森田剛史 (医薬食品局食品安 全部企画情報課情報 管理専門官)	伊地知俊一 (大臣官房参事官)
18日(金)	広島	寺尾允男	小野寺節	中村雅美 (日本経済新聞社 編集局科学技術部 編集委員)	岡村信秀 (広島県消費者団体連 絡協議会 事務局長)	山崎逸郎 (全国農業協同組合 連合会広島県本部 畜産部長)	旦有孝 (社)日本フードサー ビス協会BSE対策実 行委員会委員)	桑崎俊昭 (医薬食品局食品安 全部監視安全課長)	伊地知俊一 (大臣官房参事官)
21日(月)	名古屋	小泉直子	山本茂貴	増田淳子 (農政ジャーナリスト)	楓健年 (愛知県消費者団体連 絡会代表幹事)	伊藤厳悟 (肉用牛繁殖肥育一 貫経営、下呂市議 会議員、元飛騨肉 牛生産協議会会長)	多賀谷保治 (社)日本フードサー ビス協会BSE対策実 行委員会委員)	蟹江誠 (医薬食品局食品安 全部監視安全課 BSE対策専門官)	高橋直人 (大臣官房審議官)
22日(火)	東京	寺田雅昭	吉川泰弘	中村靖彦 (食品安全委員会 委員)	神田敏子 (全国消費者団体 連絡会事務局長)	津久井富雄 (有)グリーンハー トT&K 代表取締役社長)	加藤一隆 (社)日本フードサー ビス協会専務理事)	道野英司 (医薬食品局食品安 全部監視安全課輸入 食品安全対策室長)	伊地知俊一 (大臣官房参事官)

食品に関するリスクコミュニケーション - 米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会 - 参加者(速報値)

内訳については参加申込み時の申込者の自己申告に基づく。

都市名	日時	参加者 総計	参加者数									アンケート 回収数
			消費者団体	生産者	食品関連事 業者	研究・教育 機関	マスコミ関係 者	行政関係者	無職	その他	不明記	
札幌	平成17年11月14日(月)	93	8	6	12	1	15	17	3	13	18	48
大阪	平成17年11月15日(火)	149	30	0	20	5	8	37	16	5	28	101
仙台	平成17年11月16日(水)	89	15	3	17	0	10	24	5	6	9	50
福岡	平成17年11月17日(木)	107	5	13	10	2	6	29	10	9	23	69
広島	平成17年11月18日(金)	123	18	8	17	3	11	34	5	9	18	72
名古屋	平成17年11月21日(月)	111	11	4	11	1	8	33	15	11	17	85
東京	平成17年11月22日(火)	233	41	7	54	6	34	29	12	26	24	109
合 計		905	128	41	141	18	92	203	66	79	137	534
			14.1%	4.5%	15.6%	2.0%	10.2%	22.4%	7.3%	8.7%	15.1%	59.0%

米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会で出された主な意見等

1. 評価に関する意見等

(1) 全体及び結論関係

- ・ リスクの同等性についての評価は困難だが、輸出プログラムが遵守されればリスクの差は小さいという結論はわかりにくい。
- ・ 同等性についての評価が困難ならば、輸出プログラムが遵守されればリスクの差は小さいという点は付帯事項とすべき。
- ・ そもそも米国、カナダでの規制遵守に不安があるので、輸出プログラムの遵守を前提とした評価は成り立たないのではないか。
- ・ 評価書の内容が難解である。特に結論部分の解釈が難しい。
- ・ 国際的な管理月齢となっている 30 ヶ月齢の牛由来の食肉、内臓の安全性を評価すべき。
- ・ 米国、カナダにおける BSE リスクのみでなく、日本向け牛肉等による vCJD のリスクの評価に重点を置くべき。
- ・ 提出された意見・情報（パブリックコメント）や意見交換会での意見等がどのように反映されるのか明らかにすべき。

(2) 侵入、暴露リスク関係

- ・ 侵入リスクについて、英国以外の欧州産牛のリスクを英国産の 1/100 とするのは、不適切である。
- ・ 侵入リスク、暴露リスクの我が国と米国、カナダの対比について、計算根拠を明示すべき。
- ・ 牛由来肉骨粉の豚、鶏への給与が禁止されていないなど飼料規制が不十分な米国、カナダでは交差汚染のリスクが大きいのではないか。
- ・ 米国における CWD の蔓延、鶏糞の飼料給与によるリスクについて、もっと調査審議すべき。

(3) と畜、牛肉、内臓関係

- ・ 生理学的成熟度と月齢の関係については、詳細な検討が加えられるべき。A40 であれば 20 ヶ月齢以下という根拠は乏しいのではないか。
- ・ と畜前検査について、計算上、米国、カナダでは 1 頭あたり 12 秒で、日本では 80 秒となることをもって、長い方がよいというような印象を与

えるのは不適切である。

- ・ BSE プリオンの感染価の 99%以上が SRM にあるというが、それ以外にもあるならば、SRM 除去をもって安全とはいえないのではないか。

(4) 輸出プログラム関係

- ・ 輸出プログラムの遵守のための手続きに、我が国が主体的に関与できるような具体的な方策を評価書の中で示すべき。
- ・ 国内対策の際には、飼料規制、SRM 除去及び検査でもって安全性が確保されるとしたのに、米国・カナダ産牛肉については、20 ヶ月齢以下であれば飼料規制も検査も要らないというのは矛盾ではないか。

(5) その他

- ・ 調査審議に時間がかかりすぎた。
- ・ もっと時間をかけて慎重に調査審議すべきだった。
- ・ 米国、カナダからの政治的、経済的圧力に負けた評価結果となったのではないか。
- ・ BSE や vCJD、プリオンの研究の進捗状況を明らかにして欲しい。
- ・ 食品のリスクやリスク分析の考え方についてもっと説明すべき。

2. 管理措置に関する意見等

(1) 輸入再開関係

- ・ 米国・カナダ産牛肉等の安全性については、飼料規制や SRM 除去の遵守状況、骨肉の成熟度による月齢判別などの点で未だ不安があるので、輸入再開には反対である。
- ・ 米国・カナダ産牛肉の輸入再開によって、折角回復した消費者の牛肉に対する信頼が損なわれる懸念がある。国は、国内での BSE 発生後、全頭検査、トレーサビリティなどの努力によって、牛肉への信頼が回復したことに留意すべき。
- ・ 輸入を再開するのであれば、消費者の選択を可能とするため、米国・カナダ産牛肉・内臓が入っているもの全てについて原産地表示義務を課すべき。
- ・ リスクの差は小さいということが明らかになったのだから、早く輸入再開をして欲しい。
- ・ 米国、カナダにも全頭検査を求めるべき。

(2) 輸出プログラム関係

- ・ 輸入を再開するのであれば、輸出プログラムの内容や査察などの担保方法について国民によく説明してからにして欲しい。
- ・ 現地での査察は十分に行い、結果については公表して欲しい。
- ・ 輸入を再開した場合でも輸出プログラムの遵守が不十分な場合は、輸入を再中止すべき。
- ・ 我が国には生産履歴の記録やBSE検査などの義務があるのに対し、米国、カナダでは義務となっていない。輸入再開するのであれば条件を同じにして欲しい。
- ・ 米国、カナダに対して、サーベイランス、飼料規制、SRM 除去を充実、徹底すべき旨申し入れるべき。

(3) その他

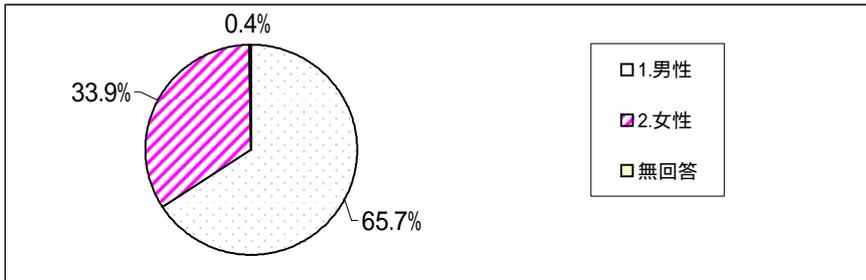
- ・ 日本人はvCJDを発生しやすいとされる遺伝子組成をもっている人が多いので、安全対策は万全を期すべき。
- ・ 検査月齢、SRM 除去などのリスク管理措置は、国際的に整合のとれたものとして欲しい。
- ・ 商品の選択は消費者に任せるべき。
- ・ 全頭検査は牛肉の安全性への信頼に不可欠なので継続すべき。
- ・ 全頭検査は安全性を担保するものではないことをもっと国民に説明すべき。
- ・ 米国、カナダでは行われていないピッシングについては、我が国でも早急に中止して欲しい。

食品に関するリスクコミュニケーション 米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会 アンケート集計結果

開催日：2005年11月14日(月)～11月22日(火)
参加者数：905名 回答数：534名 回答率：59.0%

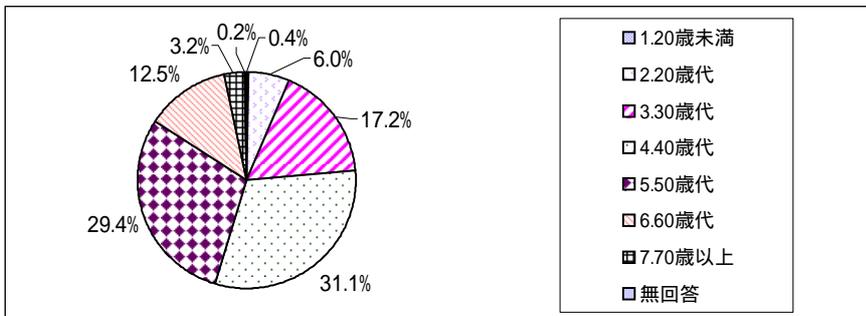
問1. あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。

性別



・アンケート回答者のうち2/3程度が男性であった。

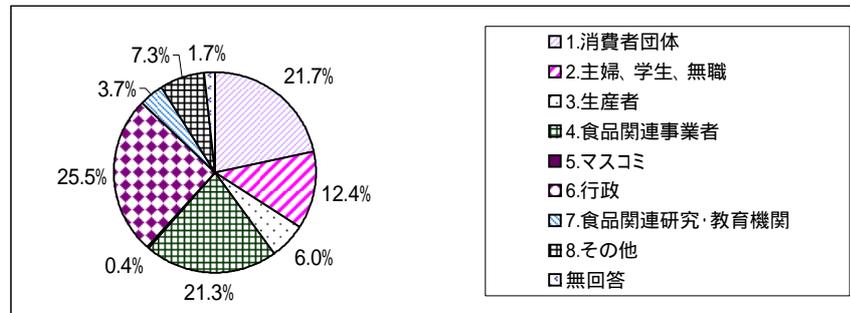
年齢



・40歳代、50歳代がそれぞれ3割程度。

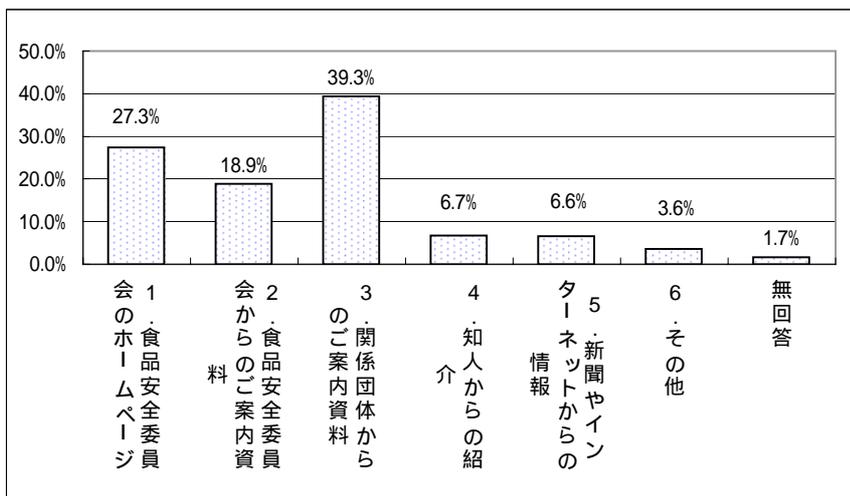
・続いて、30歳代、60歳代がそれぞれ全体の2割弱。

職業



・各会場とも行政関係者、消費者団体、食品関連事業者の参加が多い。

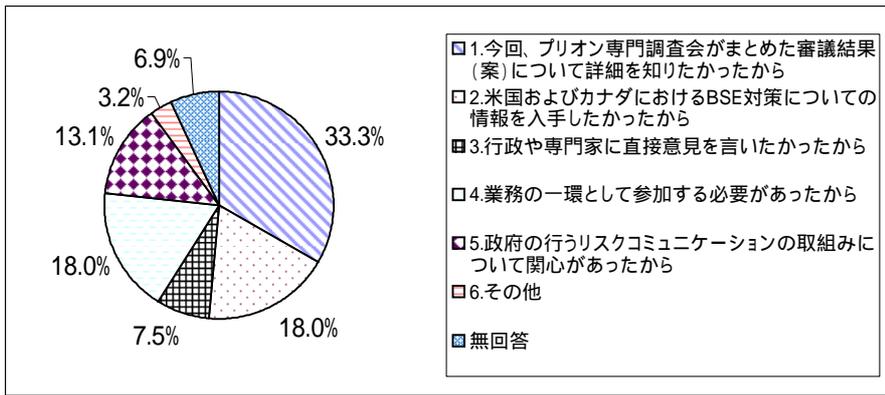
本日の意見交換会をお知りになった方法 (複数回答)



・関係団体からの案内が最も多く、全体の4割弱程度。

・次いで、食品安全委員会のホームページが全体の3割弱。

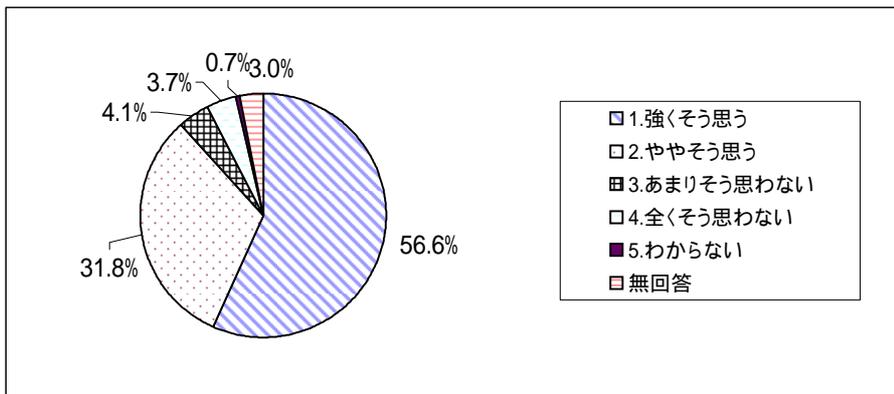
本日の意見交換会に参加された動機



・「審議結果(案)」について、詳細を知りたかったから」という動機が最も多く、全体の3割程度。

・次いで、「米国及びカナダにおけるBSE対策についての情報を入手したかったから」「業務の一環」がそれぞれ2割程度。

「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

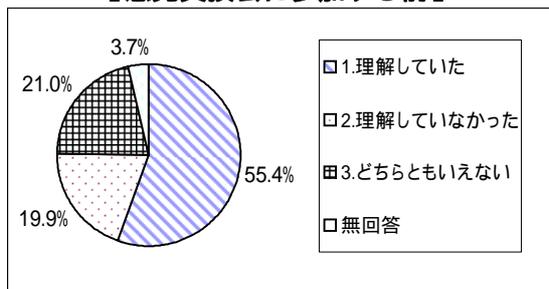


・8割以上が「強くそう思う」又は「ややそう思う」と回答。

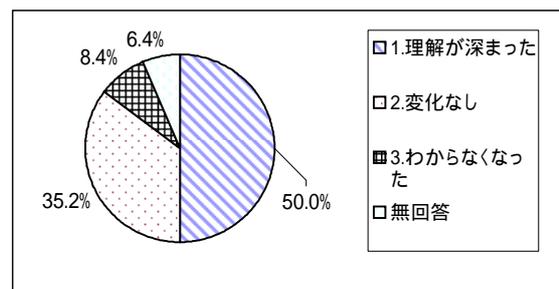
・一方「そう思わない」又は「全くそう思わない」との回答は1割程度。

問2.【意見交換会に参加する前】と【意見交換会に参加して】について

審議結果(案)の結論について 【意見交換会に参加する前】

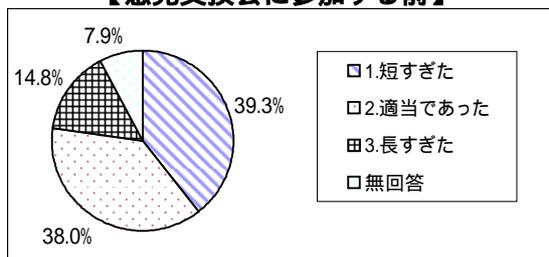


【意見交換会に参加した後】

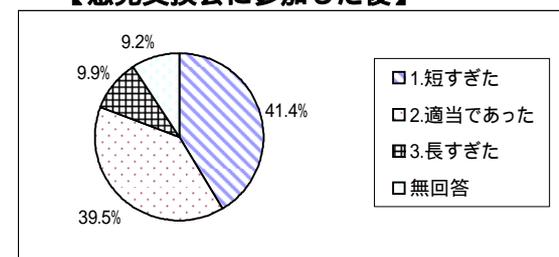


・半数以上が、意見交換会参加以前に審議結果を「理解していた」と回答。
 ・参加後、5割が「理解が深まった」と回答。一方「変化なし」が3割強、「わからなくなった」との回答も1割程度あった。

今回の食品健康影響評価の、プリオン専門調査会での調査審議期間について 【意見交換会に参加する前】

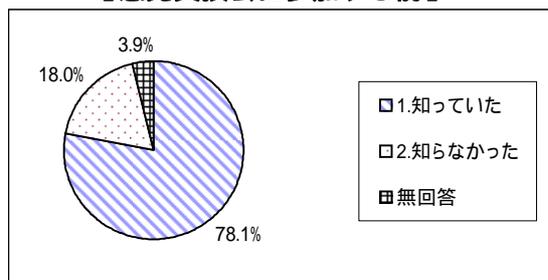


【意見交換会に参加した後】

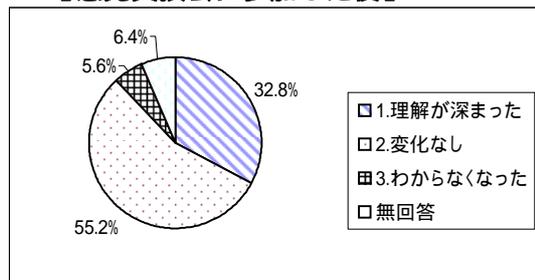


・意見交換会参加以前には、それぞれ4割弱程度が「短すぎた」「適当であった」と回答。「長すぎた」は2割弱。
 ・参加後、4割強が「短すぎた」「適当であった」と回答。「長すぎた」は1割弱に減少。

我が国の食品安全行政の役割分担について
【意見交換会に参加する前】

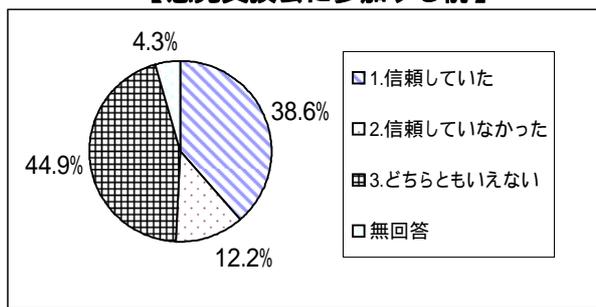


【意見交換会に参加した後】

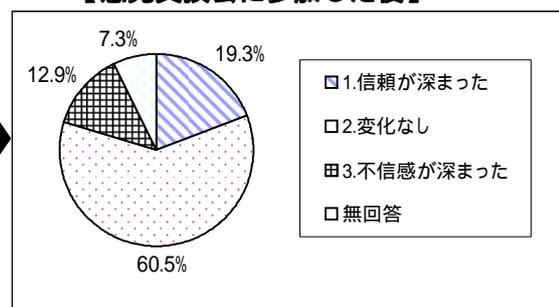


・意見交換会参加以前に「食品安全行政の役割分担」について8割弱が知っていたと回答。
 ・参加後、半数以上が理解に「変化なし」と回答。「理解が深まった」は3割程度。

食品安全委員会の取組について
【意見交換会に参加する前】



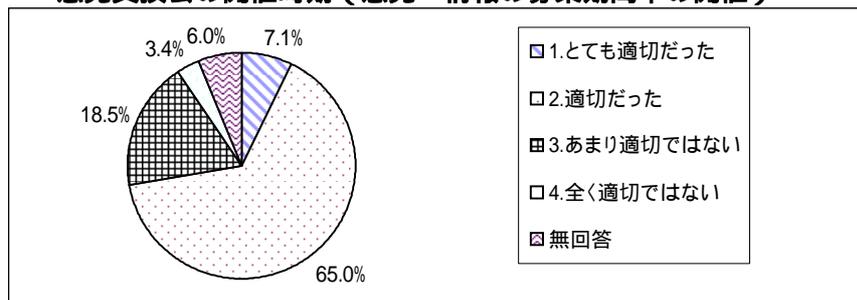
【意見交換会に参加した後】



・意見交換会参加以前に4割弱が「信頼していた」、4割強が「どちらともいえない」と回答。
 ・参加後、6割以上が「変化なし」と回答。「信頼が深まった」が2割弱。「不信感が高まった」との回答も1割強あった。

問3. 本日の意見交換会の実施方法についてお聞きします。

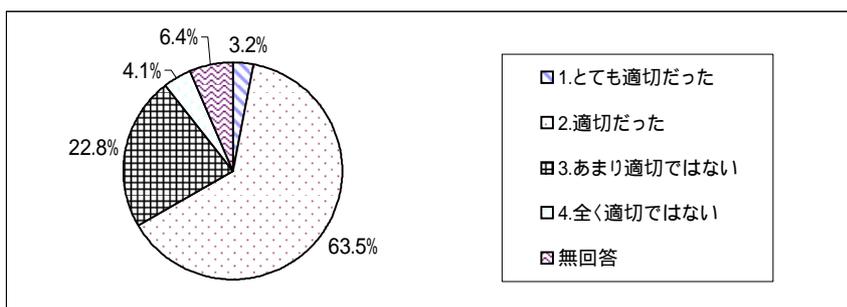
意見交換会の開催時期（意見・情報の募集期間中の開催）



・7割程度が「適切だった」又は「とても適切だった」と回答。

・一方、「あまり適切ではない」又は「全く適切ではない」との回答は2割程度。

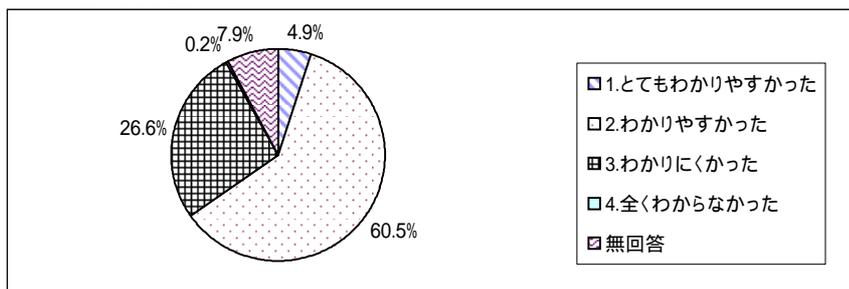
意見交換会の開催方法（開催お知らせの方法、参加の手続き）



・7割程度が「適切だった」又は「とても適切だった」と回答。

・一方、「あまり適切ではない」又は「全く適切ではない」との回答は3割程度。

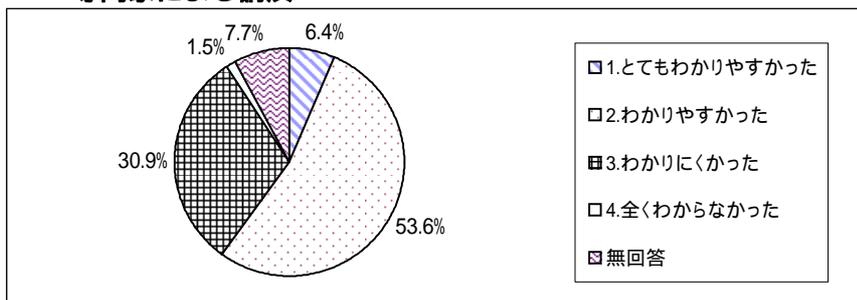
配布資料



・7割程度が「わかりやすかった」又は「とてもわかりやすかった」と回答。

・一方、「わかりにくかった」又は「全くわからなかった」との回答は3割程度。

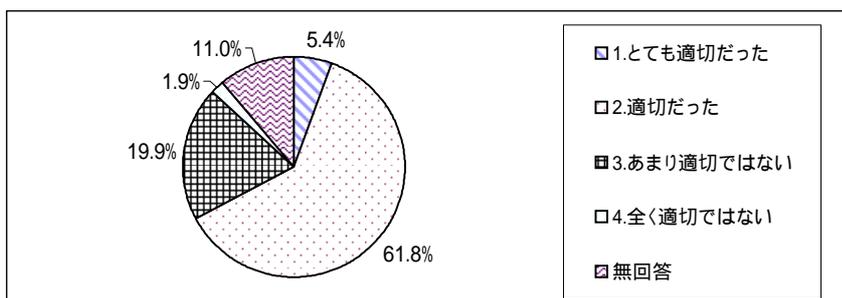
専門家による講演



・6割程度が「わかりやすかった」又は「とてもわかりやすかった」と回答。

・一方、「わかりにくかった」又は「全くわからなかった」との回答は3割程度。

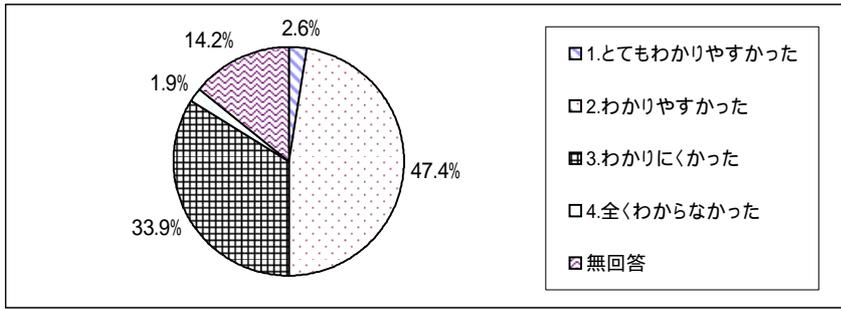
パネルディスカッションの進め方



・7割程度が「適切だった」又は「とても適切だった」と回答。

・一方、「あまり適切ではない」又は「全く適切ではない」との回答は2割程度。

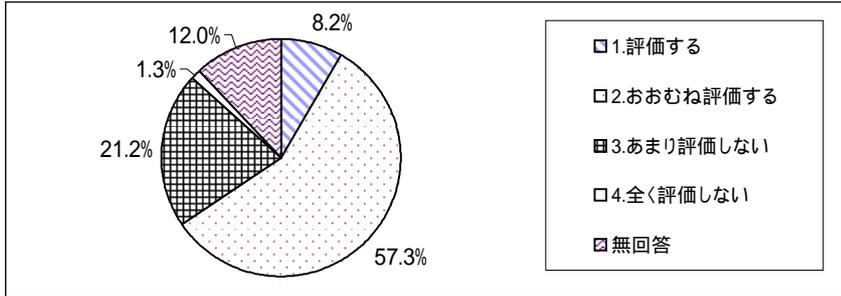
意見交換時の応答



・5割程度が「わかりやすかった」又は「とてもわかりやすかった」と回答。

・一方、「わかりにくかった」又は「全くわからなかった」との回答は4割弱程度。

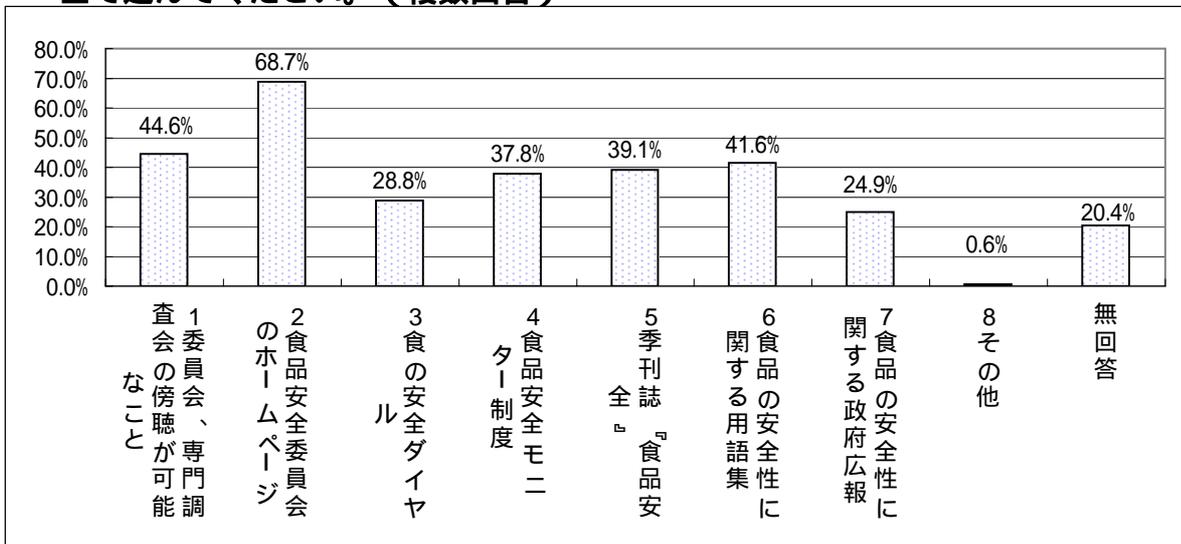
意見交換会全体



・6割程度が「おおむね評価する」又は「評価する」と回答。

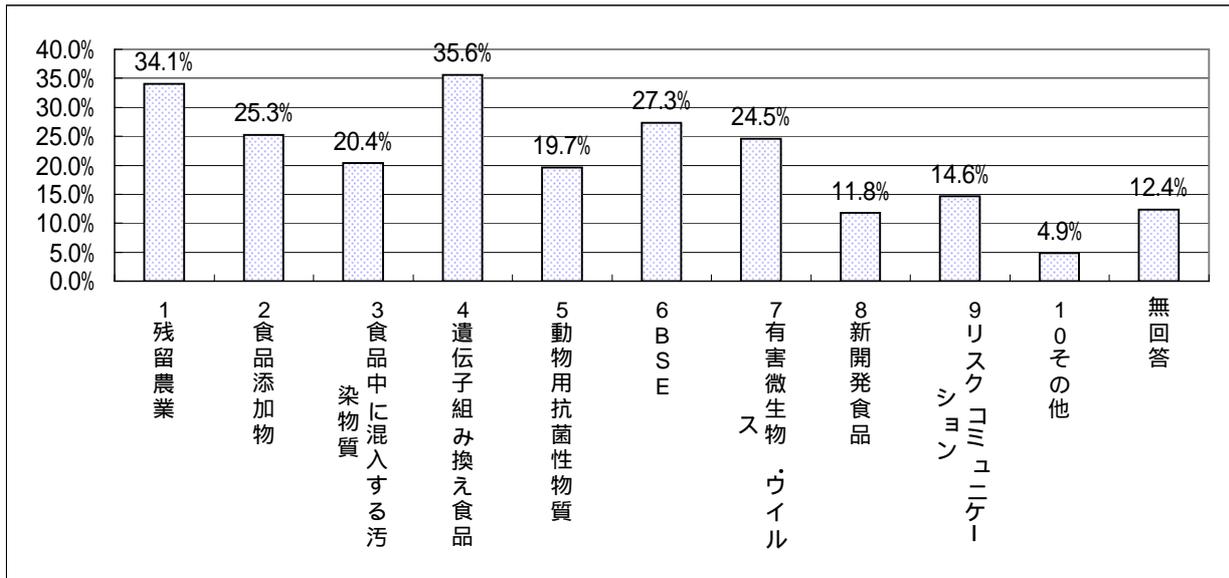
・一方、「あまり評価しない」又は「全く評価しない」との回答は2割程度。

問4. 食品安全委員会の取組のうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。（複数回答）



・「食品安全委員会のホームページ」が7割程度と最も多く、続いて、「委員会、専門調査会の傍聴」「用語集」「季刊誌」「食品安全モニター制度」がそれぞれ4割程度、「食の安全ダイヤル」が3割弱。

問5. 今後食品安全委員会の行う意見交換会で取り上げてほしいテーマはありますか。
(複数回答)



・「遺伝子組換え食品」「残留農薬」が3割を超え、「BSE」「食品添加物」「有害微生物・ウイルス」がそれぞれ2割強を占め、続いて、「汚染物質」「動物用抗菌性物質」「リスクコミュニケーション」「新開発食品」の順。

**食品に関するリスクコミュニケーション
米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会
アンケート集計結果**

開催日：2005年11月14日（月）～11月22日（火）

参加者数：905名 回答数：534名 回答率：59.0%

問1. あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。

性別

回答内容	件数	割合
1.男性	351	65.7%
2.女性	181	33.9%
無回答	2	0.4%
	534	100.0%

年齢

回答内容	件数	割合
1.20歳未満	2	0.4%
2.20歳代	32	6.0%
3.30歳代	92	17.2%
4.40歳代	166	31.1%
5.50歳代	157	29.4%
6.60歳代	67	12.5%
7.70歳以上	17	3.2%
無回答	1	0.2%
	534	100.0%

職業

回答内容	件数	割合
1.消費者団体	116	21.7%
2.主婦、学生、無職	66	12.4%
3.生産者	32	6.0%
4.食品関連事業者	114	21.3%
5.マスコミ	2	0.4%
6.行政	136	25.5%
7.食品関連研究・教育機関	20	3.7%
8.その他	39	7.3%
無回答	9	1.7%
	534	100.0%

本日の意見交換会開催をお知りになった方法（複数回答）

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1.食品安全委員会のホームページ	146	27.3%
2.食品安全委員会からのご案内資料	101	18.9%
3.関係団体からのご案内資料	210	39.3%
4.知人からの紹介	36	6.7%
5.新聞やインターネットからの情報	35	6.6%
6.その他	19	3.6%
無回答	9	1.7%
	556	

本日の意見交換会に参加された動機

回答内容	件数	割合
1.今回、プリオン専門調査会がまとめた審議結果（案）について詳細を知りたかったから	178	33.3%
2.米国およびカナダにおけるBSE対策についての情報を入手したかったから	96	18.0%
3.行政や専門家に直接意見を言いたかったから	40	7.5%
4.業務の一環として参加する必要があるから	96	18.0%
5.政府の行うリスクコミュニケーションの取組みについて関心があったから	70	13.1%
6.その他	17	3.2%
無回答	37	6.9%
	534	100.0%

「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

回答内容	件数	割合
1.強く思う	302	56.6%
2.やや思う	170	31.8%
3.あまりそう思わない	22	4.1%
4.全くそう思わない	20	3.7%
5.わからない	4	0.7%
無回答	16	3.0%
	534	100.0%

問2.【意見交換会に参加する前】と【意見交換会に参加して】について
審議結果(案)の結論について

【意見交換会に参加する前】

回答内容	件数	割合
1.理解している	296	55.4%
2.理解していなかった	106	19.9%
3.どちらともいえない	112	21.0%
無回答	20	3.7%
	534	100.0%

【意見交換会に参加して】

回答内容	件数	割合
1.理解が深まった	267	50.0%
2.変化なし	188	35.2%
3.わからなくなった	45	8.4%
無回答	34	6.4%
	534	100.0%

今回の食品健康影響評価の、プリオン専門調査会での調査審議期間について
【意見交換会に参加する前】

回答内容	件数	割合
1.短すぎた	210	39.3%
2.適当であった	203	38.0%
3.長すぎた	79	14.8%
無回答	42	7.9%
	534	100.0%

【意見交換会に参加して】

回答内容	件数	割合
1.短すぎた	221	41.4%
2.適当であった	211	39.5%
3.長すぎた	53	9.9%
無回答	49	9.2%
	534	100.0%

我が国の食品安全行政の役割分担について

【意見交換会に参加する前】

回答内容	件数	割合
1.知っていた	417	78.1%
2.知らなかった	96	18.0%
無回答	21	3.9%
	534	100.0%

【意見交換会に参加して】

回答内容	件数	割合
1.理解が深まった	175	32.8%
2.変化なし	295	55.2%
3.わからなくなった	30	5.6%
無回答	34	6.4%
	534	100.0%

食品安全委員会の取組について
【意見交換会に参加する前】

回答内容	件数	割合
1.信頼していた	206	38.6%
2.信頼していなかった	65	12.2%
3.どちらともいえない	240	44.9%
無回答	23	4.3%
	534	100.0%

【意見交換会に参加して】

回答内容	件数	割合
1.信頼が深まった	103	19.3%
2.変化なし	323	60.5%
3.不信感が深まった	69	12.9%
無回答	39	7.3%
	534	100.0%

問3. 本日の意見交換会の実施方法についてお聞きします。
意見交換会の開催時期（意見・情報の募集期間中の開催）

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	38	7.1%
2.適切だった	347	65.0%
3.あまり適切ではない	99	18.5%
4.全く適切ではない	18	3.4%
無回答	32	6.0%
	534	100.0%

意見交換会の開催方法（開催お知らせの方法、参加の手続き）

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	17	3.2%
2.適切だった	339	63.5%
3.あまり適切ではない	122	22.8%
4.全く適切ではない	22	4.1%
無回答	34	6.4%
	534	100.0%

配布資料

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	26	4.9%
2.わかりやすかった	323	60.5%
3.わかりにくかった	142	26.6%
4.全くわからなかった	1	0.2%
無回答	42	7.9%
	534	100.0%

専門家による講演

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	34	6.4%
2.わかりやすかった	286	53.6%
3.わかりにくかった	165	30.9%
4.全くわからなかった	8	1.5%
無回答	41	7.7%
	534	100.0%

パネルディスカッションの進め方

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	29	5.4%
2.適切だった	330	61.8%
3.あまり適切ではない	106	19.9%
4.全く適切ではない	10	1.9%
無回答	59	11.0%
	534	100.0%

意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	14	2.6%
2.わかりやすかった	253	47.4%
3.わかりにくかった	181	33.9%
4.全くわからなかった	10	1.9%
無回答	76	14.2%
	534	100.0%

意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1.評価する	44	8.2%
2.おおむね評価する	306	57.3%
3.あまり評価しない	113	21.2%
4.全く評価しない	7	1.3%
無回答	64	12.0%
	534	100.0%

問4. 食品安全委員会の取組のうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

(複数回答)

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1.委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと	238	44.6%
2.食品安全委員会のホームページ	367	68.7%
3.食の安全ダイヤル	154	28.8%
4.食品安全モニター制度	202	37.8%
5.季刊誌『食品安全』	209	39.1%
6.食品の安全性に関する用語集	222	41.6%
7.食品の安全性に関する政府広報	133	24.9%
8.その他	3	0.6%
無回答	109	20.4%
	1637	

問5. 今後食品安全委員会の行う意見交換会で取り上げてほしいテーマはありますか。

(複数回答)

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1.残留農業	182	34.1%
2.食品添加物	135	25.3%
3.食品中に混入する汚染物質	109	20.4%
4.遺伝子組み換え食品	190	35.6%
5.動物用抗菌性物質	105	19.7%
6.BSE	146	27.3%
7.有害微生物・ウイルス	131	24.5%
8.新開発食品	63	11.8%
9.リスクコミュニケーション	78	14.6%
10.その他	26	4.9%
無回答	66	12.4%
	1231	